



岩槻幼稚園・2025年度10月号

<2025年度10月の聖句>

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのです。 ペトロの手紙14章10節

～ 心にとめて～

10月になりました。目のまわるような暑い毎日もようやく落ち着いてきました。朝晩は気温も低くて、気持ちのいい季節になりつつあります。秋にはやりたいことがたくさんできます。今まで暑くてできないでいた、趣味のおさんぽを再開したいなあ。秋の味覚をおなかいっぱい食べたいなあ。そんなことを考えています。

おともだちのみんなにとっても、お家のみなさんにとっても、実りある季節になったらいいなと願っています。

今は、秋のプレイデーに向けて、みんなで準備をしています。ひとつの目標に向かっておこころを合わせてがんばる生活。それが、「一緒にうれしい。一緒にがたのしい」につながってくれたらいいなと思っています。自分のやりたいことを目いっぱいやりきることができる子たちなので、その力をひとつにすれば、きっと素晴らしい行事になるはずです。みんなで協力してひとつのことをやりきる愉しさを味わってくれたら、おこころがぐんと大きくなっていきます。

そんなふうに、こころもからだも成長していくみんなの姿に、ひそかに励まされています。わたしも、みんなを見習ってがんばろうという気になります。キリスト教保育は「育ち合い」を大切にしていますが、神さまに生まれた子どもたちの変化を通して、大人たちもまた、育てられていくというものです。

昨日までできなかったことが、今日、できるようになる。考えてみれば、それは凄まじいことです。それがどれほど小さなことであっても、「ひとつがんばれば変わるんだ。すごい！」という気持ちになります。大人になればなるほど、変わらないことが当たり前になってしまう毎日の生活の中で、少しずつ、でも着実に伸びていく子どもたちの姿は、感動と希望を与えてくれます。「この子が変わっているのだから、自分も変わるかもしれない」そんなふうに、がんばる力を分けてもらっているから、園長の仕事を続けられているのかもしれない。

今日より明日のみんなの方が、素敵でかっこよくなっていることでしょう。「明日のみんな」に会えるのが、毎日とてもたのしみです(^-^)/

岩槻教会牧師・岩槻幼稚園園長 清水 義尋

<今月のねがい> — いっしょに・輝いて —

- ・神さまが一人ひとりを受し、それぞれに違う賜物をくださっていることに気づき、互いを認めあえるように祈りながら過ごす
- ・歌ったり、踊ったり、作ったり、描いたりなど表現する楽しさをひとりでもまたは友だちや保育者と一緒に味わう
- ・一人ひとりの賜物が生かされ合わさると、とてもおもしろくなることや心強くなることを感じる
- ・気持ちの良い気候の中、体を動かし、戸外で遊ぶことを楽しむ

